（ N01 ）

行 政 視 察 報 告 書

令和　８年　２月　２５日

長浜市議会議長　髙山　亨　様

長浜市議会議員　中川　リョウ　　印

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．視察等名　　新しい風　会派視察研修
２．視察期間　　令和８年２月１６日（月）～２月１８日（水）
３．視察場所及び目的
①鹿児島市
「南部清掃工場におけるバイオガス発電の取組について」
②鹿児島市立天文館図書館
「中心市街地における図書館整備とにぎわい創出について」
③武家屋敷管理組合
「歴史的景観の保全と観光資源活用について」
④九州電力 山川発電所
「地熱発電による再生可能エネルギー活用について」

４．調査内容感想等

【1日目】
鹿児島市「南部清掃工場におけるバイオガス発電の取組について」
１．視察の目的と背景
近年、地球温暖化対策や脱炭素社会の実現に向けた取り組みが全国的に進む中、自治体においても従来型の大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から、循環型社会への転換が求められている。
特に廃棄物行政においては、単に「ごみを処理する」という視点だけではなく、廃棄物そのものをエネルギー資源として有効活用し、地域内でエネルギー循環

を生み出していく考え方が重要視されている。
長浜市においても、米原市との一部事務組合による新たなごみ処理施設整備とバイオガス化発電事業が計画されていることから、先進自治体である鹿児島市南部清掃工場を視察し、施設整備の背景、事業スキーム、運営体制、環境負荷低減への効果等について調査を行った。

２．視察内容の詳細
鹿児島市南部清掃工場では、し尿や生ごみ等を原料としたメタン発酵によるバイオガス発電が実施されていた。
施設では、一般家庭や事業所から排出される有機性廃棄物を発酵処理し、その過程で発生するメタンガスを活用して発電を行っていた。
これにより、

- 廃棄物の減量化
- 温室効果ガス排出抑制
- 再生可能エネルギー創出
- エネルギーの地産地消

を同時に実現しており、単なる清掃施設ではなく、「地域循環型エネルギー拠点」として施設運営が行われていた。
また、施設整備にあたっては、

- 安定した有機性廃棄物確保
- 発酵効率の維持
- 発電設備の保守管理
- 災害時対応
- 周辺住民理解

など、多くの課題があったとの説明を受けた。
特に印象的だったのは、エネルギー政策と廃棄物政策を一体的に捉え、「環境インフラ」として位置付けている点である。
さらに、発電による売電収入だけではなく、将来的な脱炭素政策への対応やエネルギー安全保障の観点からも重要な取り組みであるとの説明があった。

３．所感・長浜市への示唆

長浜市においても、今後整備予定のバイオガス化発電施設は、単なるごみ処理施設ではなく、「地域エネルギー政策の核」として位置づける必要があると強く感じた。

特に、

- 廃棄物処理
- 脱炭素政策
- 防災
- エネルギー地産地消

を横断的に結びつける視点が重要である。

また、施設整備後の安定稼働には、高度な技術力や運営ノウハウが必要となるため、行政単独ではなく民間事業者との連携や広域的な運営体制の構築も重要であると感じた。

さらに、近年の電力価格高騰や災害リスクを考えると、自治体が一定程度エネルギーを地域内で確保する重要性は今後さらに高まると考えられる。

長浜市においても、「ごみ行政」だけで議論するのではなく、地域経済や防災政策を含めた総合的なエネルギー戦略として検討を進めるべきであると感じた。

【2 日目 午前】

鹿児島市立天文館図書館「中心市街地における図書館整備とにぎわい創出について」

１．視察の目的と背景

全国の地方都市では、人口減少や郊外化による中心市街地の空洞化が大きな課題となっている。

そのような中、鹿児島市立天文館図書館は、商業施設との複合化により、多世代が集い滞在する「都市型公共施設」として整備されており、中心市街地活性化に大きく寄与していることから視察を実施した。

長浜市においても、中心市街地の活性化や公共施設再編が今後重要なテーマと

なる中で、公共施設が「まちづくりの核」として果たす役割について学ぶことを目的とした。

２．視察内容の詳細

天文館図書館は、商業施設内に整備されており、従来型図書館とは大きく異なる「開かれた空間」となっていた。

館内には、

- 学習スペース
- カフェ機能
- 子ども向け空間
- イベントスペース
- ワークスペース

などが整備されており、多様な世代が自然に滞在できる空間設計となっていた。

また、図書館利用者が周辺商業施設へ回遊する仕組みが構築されており、図書館単体ではなく「まち全体のにぎわい創出装置」として機能していた。

特に印象的だったのは、「図書館＝静かに本を読む場所」という従来イメージを超え、人々が交流し、滞在し、学び、活動する都市空間として設計されていた点である。

さらに、SNS 等を活用した情報発信やイベント開催など、民間的な感覚を取り入れた運営が積極的に行われていた。

３．所感・長浜市への示唆

長浜市においても、今後の公共施設整備では、「単独機能型施設」ではなく、“複合化”や“滞在価値”を重視した視点が必要であると感じた。

特に、

- 図書館
- 子育て
- 学習
- 商業

- 観光

などを横断的につなぐことで、新たな人流や交流を生み出せる可能性を感じた。
また、人口減少社会では、単に施設を整備するだけでは人は集まらず、「行きたくなる理由」「滞在したくなる空間設計」が重要である。
長浜市においても、黒壁スクエア周辺や中心市街地エリアにおける公共施設再編を考える際には、“都市空間全体をどうデザインするか”という視点が必要であると感じた。

【2日目 午後】
武家屋敷管理組合「歴史的景観の保全と観光資源活用について」
１．視察の目的と背景
地方都市において、歴史的景観を活かした観光振興は、地域経済活性化や交流人口拡大の重要な施策となっている。
長浜市においても、

- 北国街道
- 黒壁スクエア
- 戦国史跡
- 観音文化

など、多くの歴史資源を有していることから、南九州市における武家屋敷群保存地区の取り組みを学ぶため視察を実施した。

２．視察内容の詳細
現地では、武家屋敷群の保存・修景に関する制度や住民参加型の景観保全の取り組みについて説明を受けた。
特に、

- 景観条例
- 修景基準
- 補助制度
- 建築規制

などを活用しながら、地域全体として歴史景観を維持している点が特徴的であった。
また、単なる保存に留まらず、

- 観光ガイド
- 飲食店連携
- 宿泊事業
- 地域イベント

などを組み合わせることで、観光消費へつなげる工夫がなされていた。
特に印象的だったのは、「歴史を守ること」と「地域で生活すること」を両立させている点である。
住民理解なしに景観保全は成立せず、行政だけでなく地域住民が主体的に関わっていることが、持続的な景観形成につながっていると感じた。

３．所感・長浜市への示唆
長浜市においても、歴史資源を単独で活用するのではなく、“面的な観光導線”として磨き上げる必要があると感じた。
特に、

- 北国街道
- 木之本宿
- 観音文化
- 戦国史跡
- 黒壁スクエア

などをストーリー性を持ってつなげることで、滞在型観光への可能性がさらに広がると感じた。
また、歴史的景観は「保存するだけ」では維持できず、観光消費や地域経済循環と結びつけることで初めて持続可能になる。
長浜市においても、景観政策と観光政策、さらには民泊や地域商業との連携を一体的に進めていく必要があると感じた。

【3 日目】

九州電力 山川発電所「地熱発電による再生可能エネルギー活用について」

１．視察の目的と背景

国の脱炭素政策が進む中、再生可能エネルギー導入拡大は全国的な課題となっている。

その中でも地熱発電は、太陽光や風力と異なり、天候に左右されず安定的な発電が可能であることから、重要なベース電源として注目されている。

今回、九州電力山川発電所を視察し、地熱発電の仕組みや地域との共生について調査を行った。

２．視察内容の詳細

山川発電所では、地下深部の蒸気・熱水を活用した地熱発電が行われていた。

施設では、

- 安定的電力供給
- CO_2削減
- 再生可能エネルギー活用

を実現しており、長期的な視点でエネルギー供給を行っていた。

一方で、

- 温泉資源との調整
- 環境影響
- 地域住民理解

など、様々な課題も存在していた。

特に印象的だったのは、「地域との信頼関係」が事業継続の根幹となっている点である。

再生可能エネルギー事業は、単なる発電施設建設ではなく、地域社会との共生が不可欠であることを強く実感した。

３．所感・長浜市への示唆

長浜市においても、

- バイオガス
- 太陽光
- 小水力

など、地域特性を活かした再生可能エネルギー導入を検討していく必要がある。
また、再生可能エネルギー政策は、単なる環境政策ではなく、

- 防災
- 地域経済
- エネルギー安全保障
- 産業振興

とも密接に関係している。
人口減少社会においては、地域内で経済循環を生み出す視点が極めて重要であり、エネルギー政策もその一部として捉える必要があると感じた。

総括
今回の視察では、

- 脱炭素社会
- 公共施設再編
- 歴史的景観活用
- 再生可能エネルギー

など、多岐にわたる先進事例を学ぶことができた。
特に共通して感じたのは、どの自治体も「地域資源をどう磨き上げ、地域価値へ転換するか」という視点を強く持っていた点である。
人口減少社会においては、単に施設整備を行うだけではなく、

- 人が集まる理由
- 滞在する理由
- 地域に価値を感じる理由

を戦略的に作り出していく必要がある。
長浜市においても、

- 歴史

- 観光
- 環境
- エネルギー
- 公共施設

を有機的につなぎながら、“長浜らしい持続可能なまちづくり”を進めていく必要があると強く感じた。